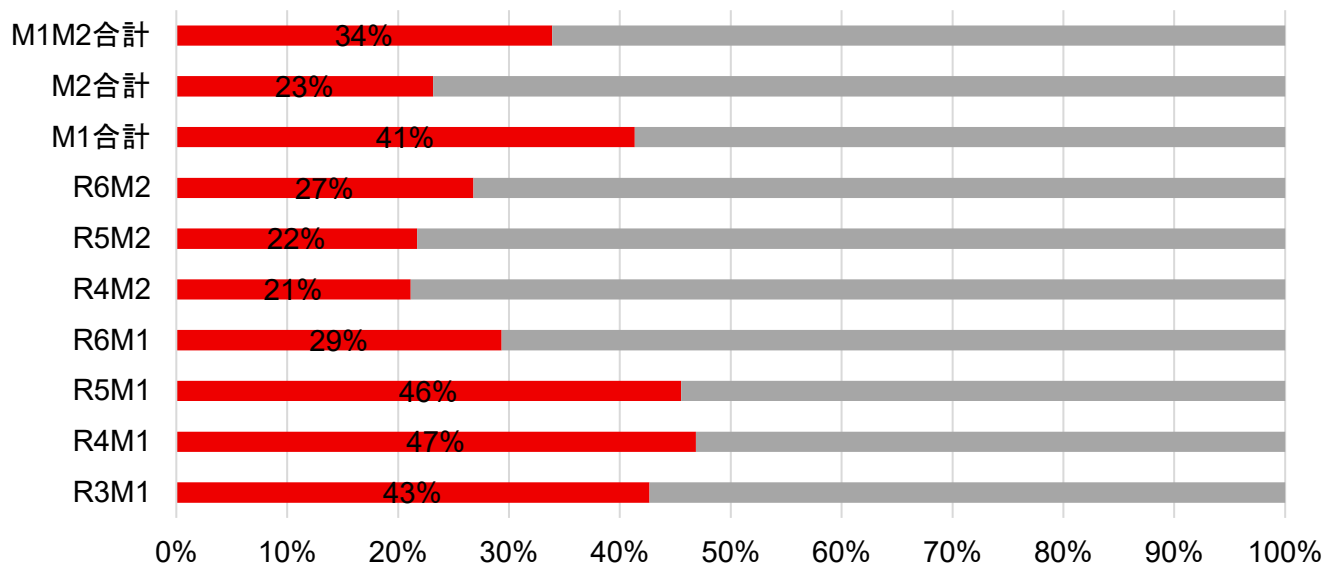


自然科学研究科博士前期課程

進学関連アンケートの経年変化（令和 3 年度～令和 6 年度）

2025.07.15

回答率

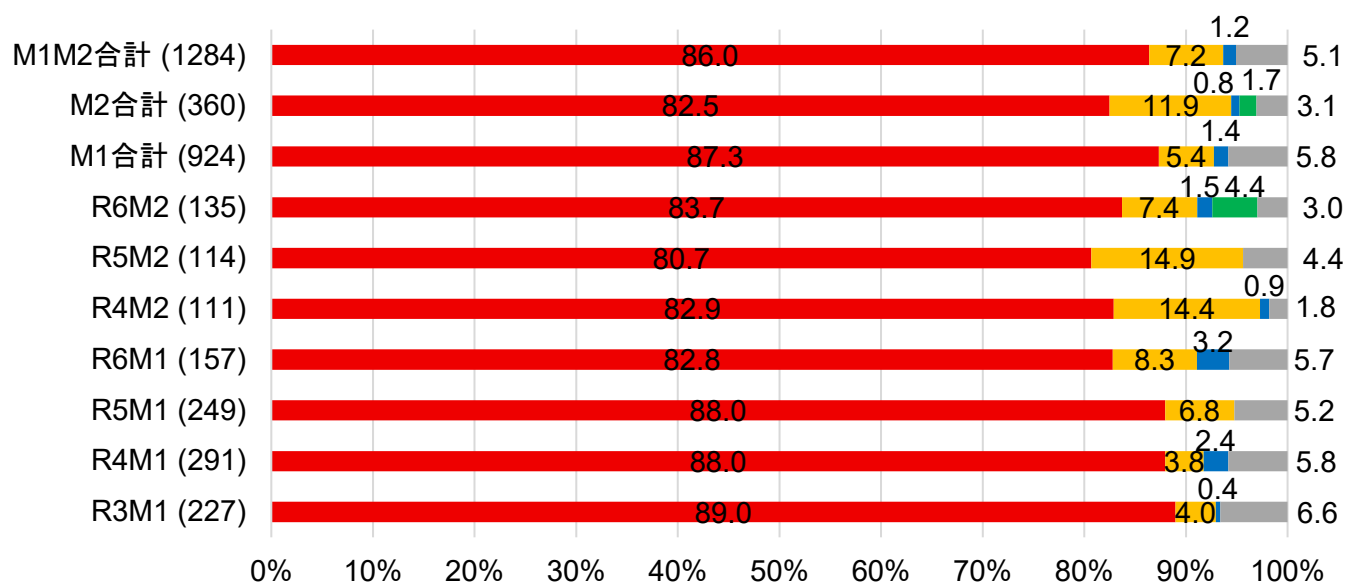


- ・ M1 の回答率は 30～50%程度(平均 41%)だが、M2 はそれより低く、20～30%程度(平均 23%)。
- ・ M1 は 4 月でガイダンス後、M2 は 6 月で学情のみ。
→ M2 へのアンケート周知の強化が必要。4～5 月は就職活動の時期であることも、回答率が低い原因かもしれない。今年度から 8 月頃の開催を検討(M2 のアンケートは就職の情報を得ることを主目的としている)。

現時点で予定している進路

※()内は人数

a	就職したい
b	進学したい
c	進学したい（他大学）
d	就職するが、将来的にはチャンスがあれば社会人博士課程に進みたい ※R6M2 のみ
e	未定



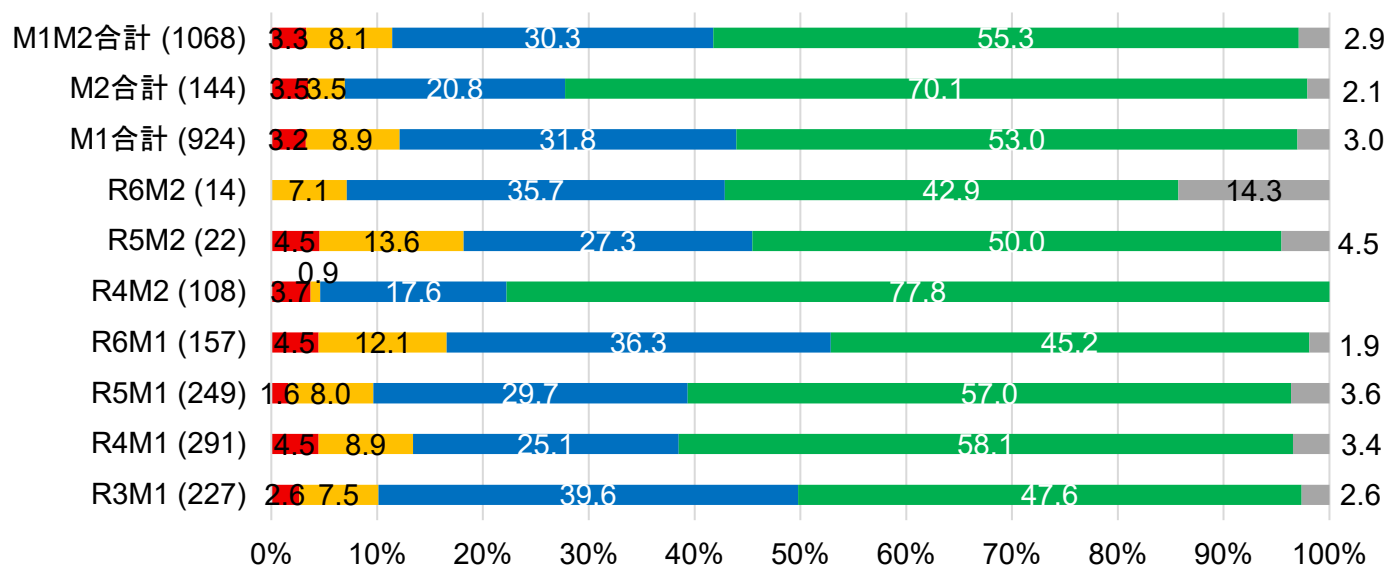
- ・ 「進学したい」と答える人は、M1 では4～11%程度(平均7%)だが、M2 では9～15%程度(平均13%)。
→ 「回答率」での考察からも、M2 は進学希望の人が回答しやすい傾向にあるのかもしれない。
- ・ 未定の人は、M1 では5～7%程度(平均5.8%)、M2 では2～4%程度(平均3.1%)。

意思決定の度合い

※R5M2、R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

(R5R6 の M2 で選択肢を絞った理由は、M2 段階で就職希望の人は意思決定が固いため、進学希望の学生の情報のみを得るため)

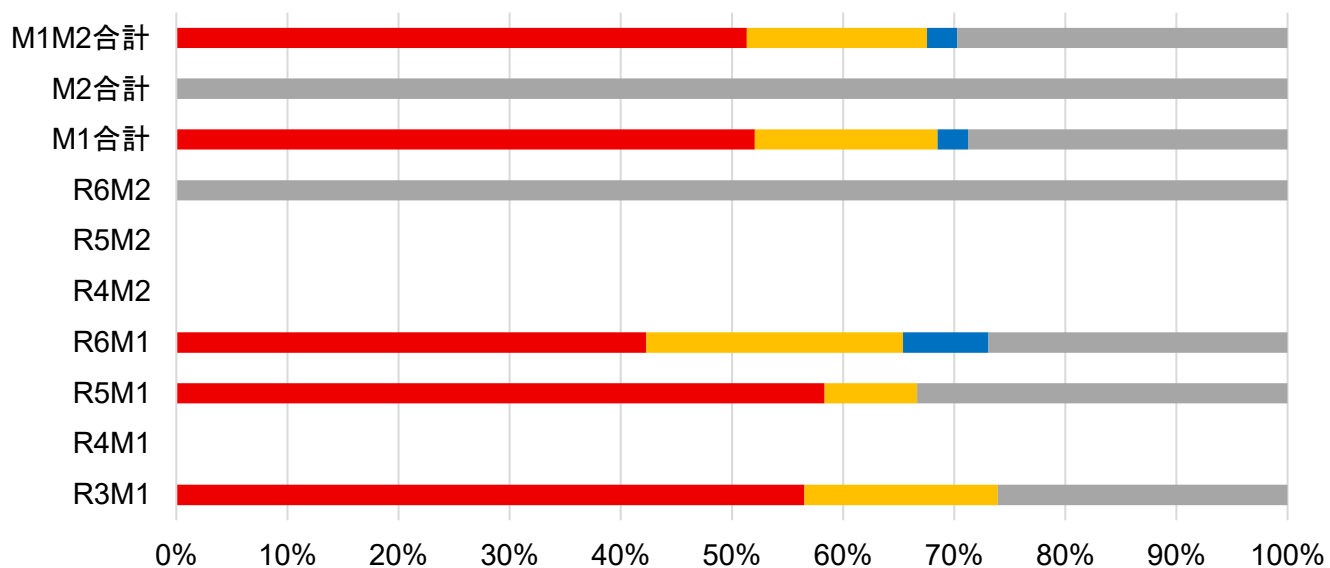
a	とても迷っている
b	迷っている
c	あまり迷っていない
d	全く迷っていない
e	まだ考えたことがない



- ・ 迷っている人は、M1 では 10～17%(平均 12%)、M2 では 4～18%(平均 7%)。
 - ・ 全く迷っていない人は、M1 では 45～58%(平均 53%)、M2 では 43～78%(平均 70%)。
- M2 の段階では進路の意思決定がかたまっている。

迷っている人の、現時点で予定している進路

a	就職したい
b	進学したい
c	進学したい（他大学）
d	就職するが、将来的にはチャンスがあれば社会人博士課程に進みたい
e	未定

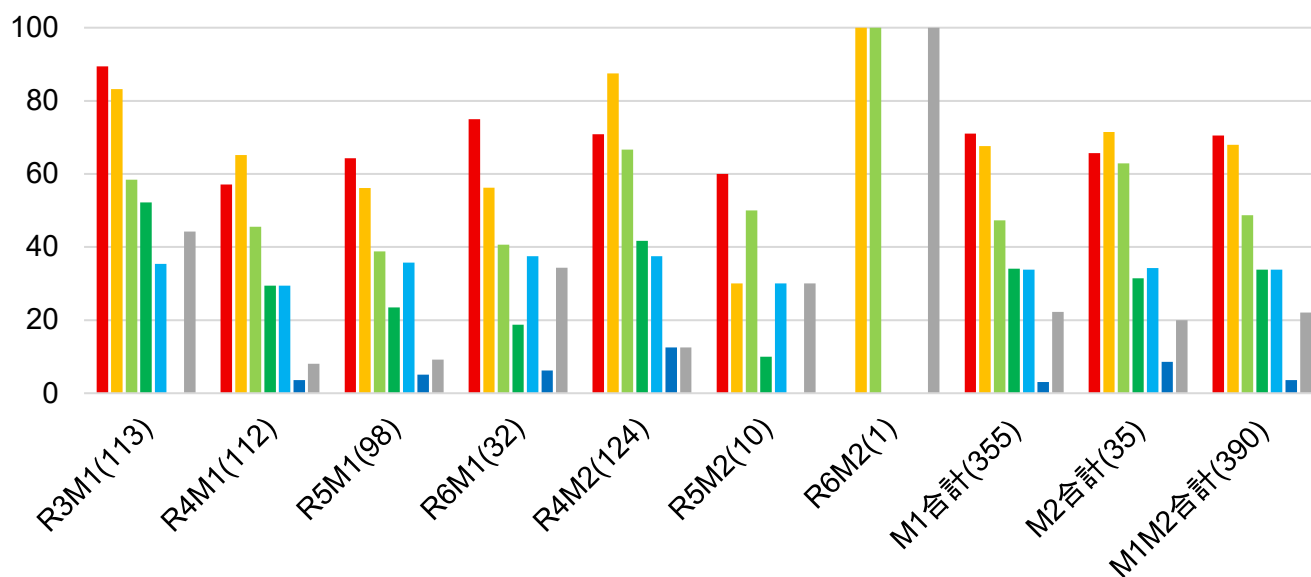


- 迷っている人が予定している進路は、進学または未定の割合が高かった。

迷っている場合、その理由（複数回答可）

※R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

a	博士課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安
b	進学することでさらにお金がかかる
c	博士課程修了後、就職できるかどうか不安
d	博士進学しても就職で有利になるイメージがない
e	博士進学についての情報が少なく、進学後の生活がイメージできない
f	指導教員が多忙で、十分な指導を受けられるか不安 ※R3M1 以外
g	その他

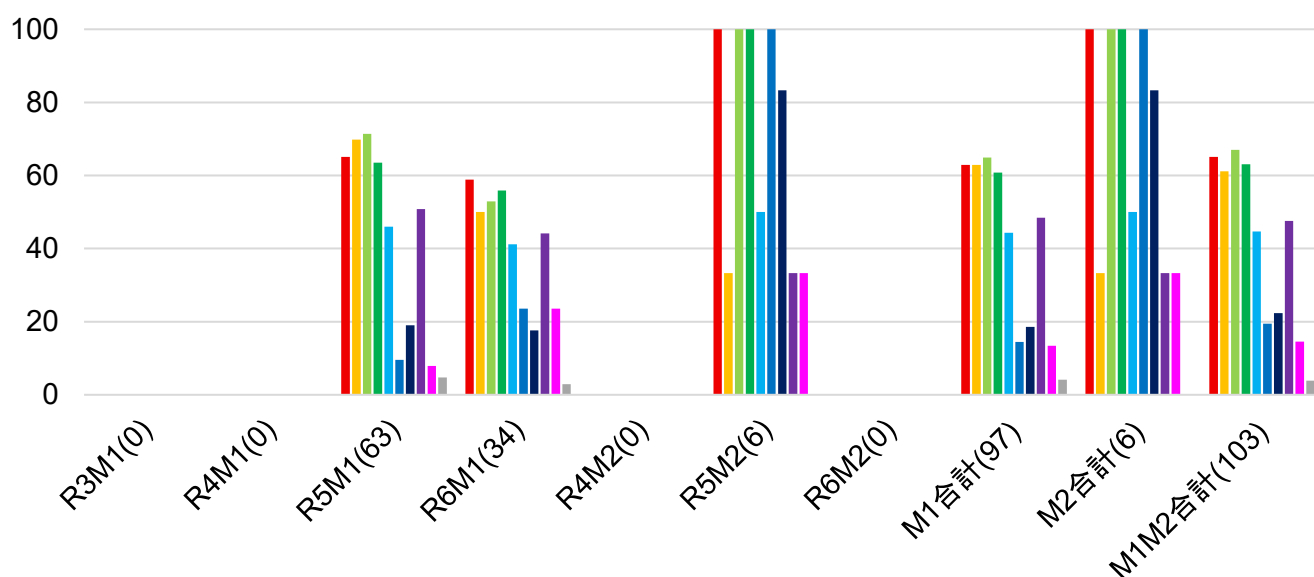


- ・ 年度、学年問わず多い回答は、「博士課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安」「金銭面の不安」が60%以上、「修了後、就職できるかどうか不安」が50%程度。
 - ・ 「就職で有利になるイメージがない」「博士進学についての情報が少なく、進学後の生活がイメージできない」も30%以上。
- 進学推進のためには、これらの情報を学生に伝える必要がある。

不安である理由（複数回答可）

※R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

a	専攻分野への深い興味や探求心を持っているか、研究が本当に好きか現段階で分からない
b	自分は研究には向いていないかもしれないと思っている
c	専攻分野の研究に必要な基礎的知識を身につけているか不安
d	研究成果を論文（博士論文含む）にまとめることができるか不安
e	グローバルに活躍し海外の研究者とも情報交換できるか不安（語学力）
f	博士後期課程の先輩を見ていて、自分が研究についていけるか不安
g	標準修業年限（3年間）で修了できるか不安
h	そもそも博士後期課程で要求されるレベルがわからない
i	他大学の大学院の様子・レベルがわからない
j	その他

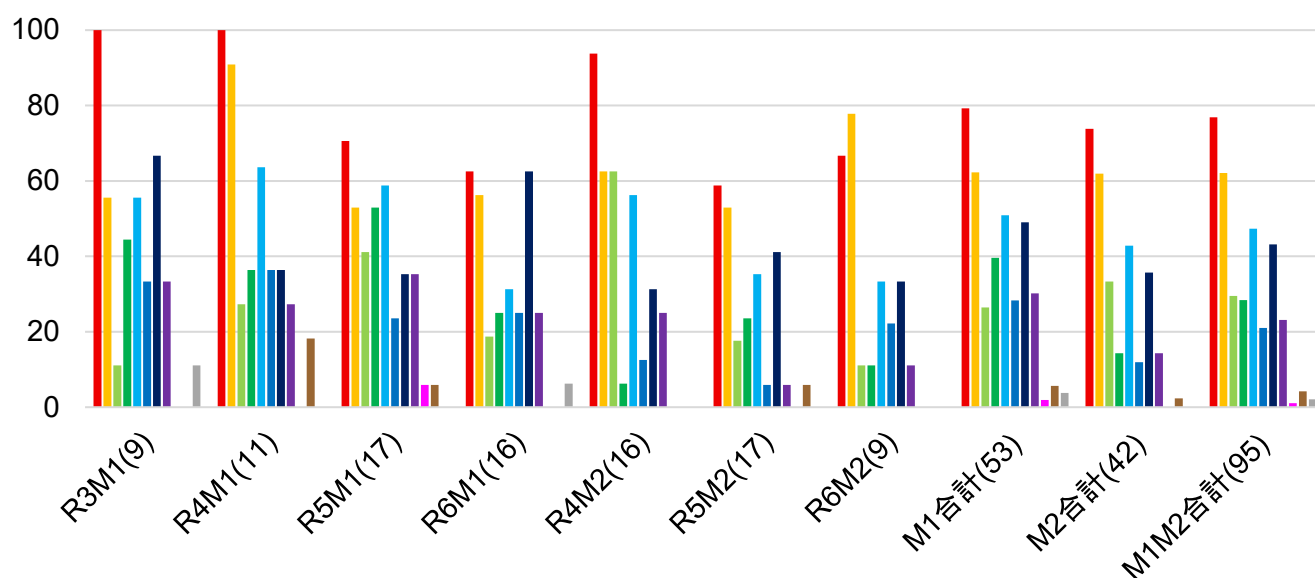


- ・ 50%を超えた選択肢は、「専攻分野への深い興味や探求心を持っているか、研究が本当に好きか現段階で分からない」「自分は研究には向いていないかもしれない」「専攻分野の研究に必要な基礎的知識を身につけているか不安」「研究成果を論文にまとめることができるか不安」「グローバルに活躍し海外の研究者とも情報交換できるか不安」「博士後期課程で要求されるレベルがわからない」
- ・ 「標準修業年限（3年間）で修了できるか不安」と答えた人は20%程度。
- ・ 新たな選択肢の候補：「金銭支援制度に採択されるかが不安」

博士進学に影響する観点（複数回答可）

※R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

a	博士課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから
b	学部での研究テーマが魅力的で、博士課程でもその研究を継続したいから
c	学部での研究活動が充実していたから
d	博士課程でも、共同研究をより経験したいから
e	将来は、アカデミアでの活躍を希望しているから
f	就職活動に有利だと思うから
g	接した教員が魅力的だったから
h	接した先輩が魅力的だったから
i	周囲がそうするので
j	正直、深く考えていない
k	その他

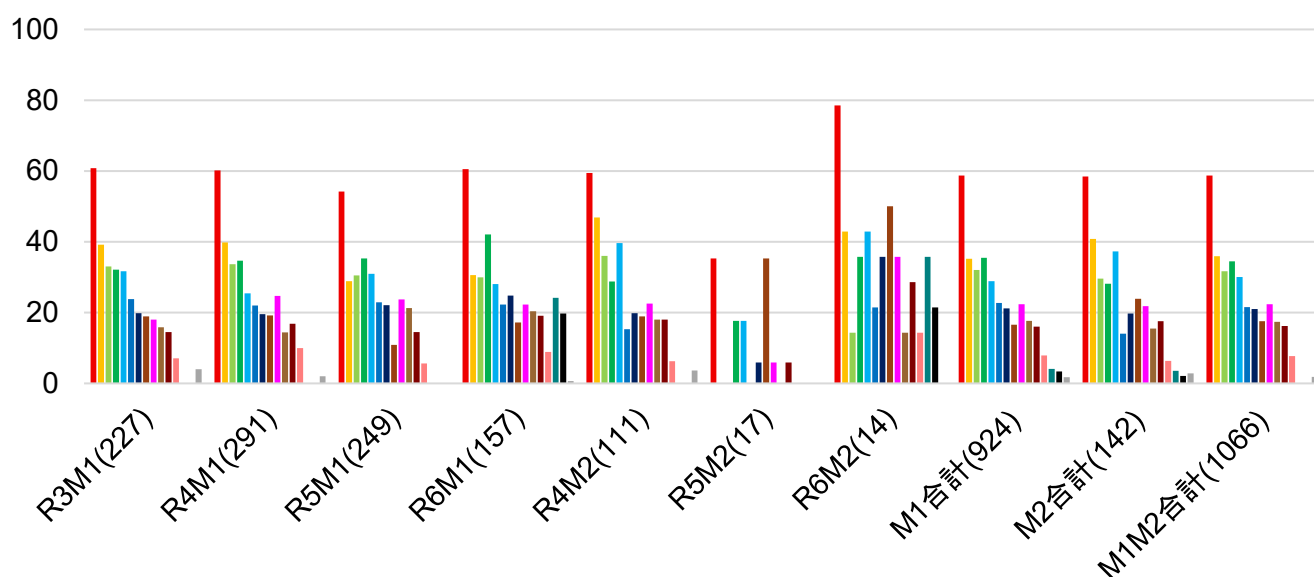


- ・ 最も多い回答は「博士課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから」で80%程度。
- ・ 次に多い回答は、「学部での研究テーマが魅力的で、博士課程でもその研究を継続したいから」で60%程度、「アカデミアでの活躍を希望しているから」「接した教員が魅力的だったから」が40%程度。
- ・ 学年による差はあまりないが、M1のほうが多い回答は「博士課程でも、共同研究をより経験したいから」「就職活動に有利だと思うから」「接した先輩が魅力的だったから」
- ・ M1の「博士課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから」「就職活動に有利だと思うから」回答者が年々減少している。

進学を前向きに検討するために必要なことは？（複数回答可）

※R5M2、R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

a	学費・生活費に対する経済的支援
b	博士課程に対応した就職支援の取り組み
c	企業との関わり（連携授業、共同研究、インターシップなど）
d	自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること
e	身近にロールモデルや相談役がいること
f	社会との関わり（学会・学術界以外の一般社会に向けた情報発信など）
g	指導者・研究者としての教員の質の高さ
h	国際的な学術交流（海外での研究インターンシップ、海外の大学への留学、国際学会、海外機関との共同研究など）
i	教育・研究指導を受ける機会
j	目的に応じて計画的に組まれた講義や演習
k	分野・専攻を超えた学問交流・融合
l	大学発ベンチャー企業での活動
m	博士後期課程に要求される資質や進学後の研究生活についての情報 ※R6M1M2 のみ
n	研究設備及び研究環境の充実 ※R6M1M2 のみ
o	その他

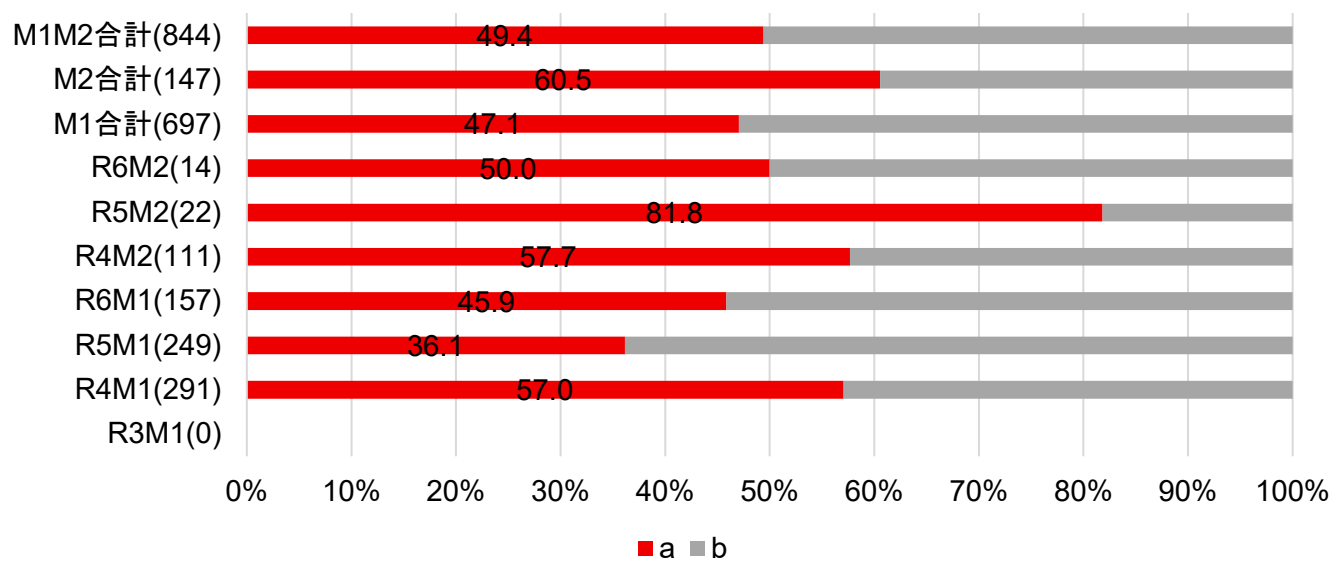


- ・ 最も多い回答は、「学費・生活費に対する経済的支援」で6割程度。
- ・ 次に多いのは、「博士課程に対応した就職支援の取り組み」「企業との関わり（連携授業、共同研究、インターシップなど）」「自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること」「身近にロールモデルや相談役がいること」。R6M1M2からの選択肢「博士後期課程に要求される資質や進学後の研究生活についての情報」の需要もある。
- ・ 学年による差はあまりないが、M1で高いのは「社会との関わり（学会・学術界以外の一般社会に向けた情報発信など）」、M2で高いのは「自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること」。
- ・ 「大学発ベンチャー企業での活動」は例年低い。

博士進学を支援する返済不要の奨学金・金銭支援制度を

※R5M2、R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

- a 知っている
- b 知らなかった

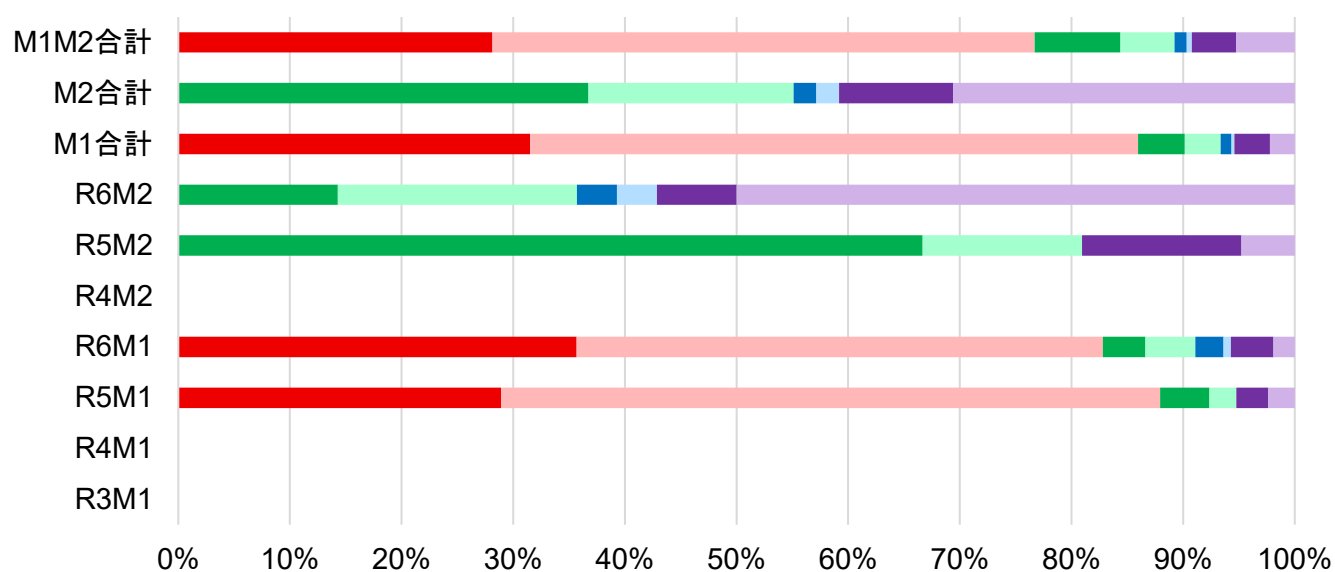


- ・ 知っている人の割合は、M1 では36～57%(平均47%)、M2 では50～82%(平均61%)。
→ 進学推進のためには、奨学金・金銭支援制度を学生に伝える必要がある。
- ・ アンケート回答後に、高度化センターHPの支援金比較表に誘導する。

上記の質問について、予定している進路との関係

※R5M2、R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

a	就職したい・知っている
b	就職したい・知らなかった
c	進学したい・知っている
d	進学したい・知らなかった
e	進学したい（他大学）・知っている
f	進学したい（他大学）・知らなかった
g	未定・知っている
h	未定・知らなかった

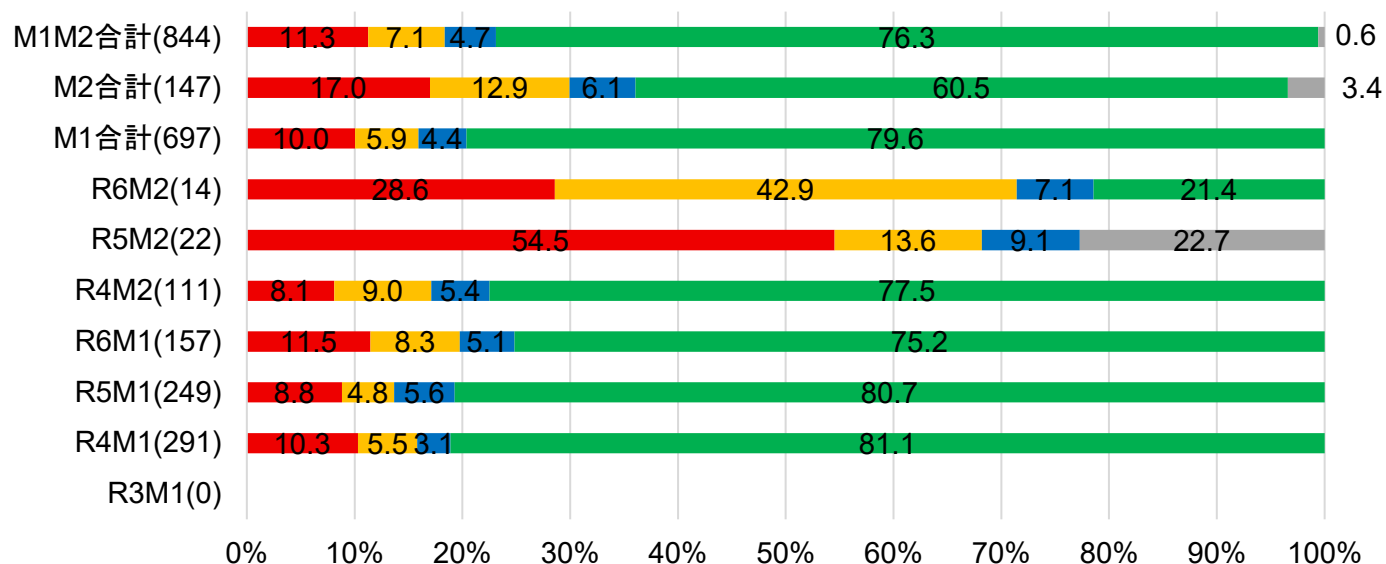


- ・ 金銭支援制度についての周知率は、就職したい人よりも新大/他大に進学したい人や未定の人で高い傾向にあるが、大差はない。
→ 金銭支援制度についてのさらなる周知が必要。

金銭支援制度は、博士進学を検討する材料となるか？

※R5M2、R6M2 は、「新大/他大へ進学する」と回答した人のみ

- a 金銭的問題で博士進学をあきらめていたが、この制度を利用して進学検討したい
- b 奨学金制度は知らなかったが、当初から博士進学するつもり。できれば制度を利用する
- c 奨学金制度と関係なく、当初から博士進学するつもり。制度は利用しない
- d 奨学金制度とは関係なく、博士進学するつもりはない
- e 進路は未定 ※R5M2 のみ



- ・ M1 で「金銭的問題で博士進学をあきらめていたが、この制度を利用して進学検討したい」が 10%程度いる。
→ 学部生や修士 1 年の早期段階において金銭支援制度を周知することは、進学者増加に有効な可能性がある。
- ・ 「奨学金制度とは関係なく、博士進学するつもりはない」は 80%程度。
- ・ 「奨学金制度と関係なく、当初から博士進学するつもり。制度は利用しない」という回答が毎年一定数 (5%前後) いる。